

締切り  
2026年  
5月19日  
正午

# ASPIRE公募受付中

## What is ASPIRE

ASPIREは、世界のトップ科学者層とのネットワーク構築、国際的なトップ研究コミュニティへの参画、将来持続的に世界で活躍できる人材の育成などを目的とし、優秀な若手研究者等の科学技術先進国への渡航や招聘、トップレベルの国際共同研究を支援している助成金であり、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が行っている事業です。

## ネットワーク通信分野とは

**研究領域** スマート社会・デジタルインフラを支えるコンピュータネットワーク基盤技術及び次世代情報通信技術、サイバーフィジカルシステムとその応用に関する研究

**研究事例** AI ネイティブ、コンピュータネットワーク、クラウドネットワーク、分散クラウド、デジタルツインネットワーク、有線・無線ネットワークシステムとデバイス、電波・光・量子等の通信、ネットワークデバイス、ネットワークセキュリティ等、並びに、スマート社会へのその応用としての例えば、ネットワークロボット、ITS (高度道路交通システム)等に係る基盤、及び応用研究、情報工学・情報科学との分野横断研究 等

## ASPIRE公募内容



応募カテゴリーは以下の2つで、日本側研究者が、対象国・地域の研究者と組んで作成した国際共同研究の提案を受付けます。

- ・「TopのためのASPIRE」 最大5億円／5年間(間接経費込み)
- ・「次世代のためのASPIRE」 最大9千万円／3年間(間接経費込み)

応募に際し、相手側研究者は対象国・地域で何らかの支援を受けている(受ける見込みがある)など、各種要件があります。



詳しくは公募ページをご覧ください

## Program Officerからのメッセージ



広い意味での通信分野は、世界的に成長目覚ましい分野で、文科省、JSTも半導体と並び重点6分野に新しくいれ、このASPIREでも強く募集しています。ASPIREは、研究そのものの支援ではなく、「人」つまり世界TOP人材になる方を、最大一人5億円という大きな資

金を提供し、さらにその資金の70%を人材交流や、海外TOPサークルでの活動に使ってもらいます。

過去のASPIREのPIの方は、海外にラボを作ったり、海外PIと共同で国際会議をどんどん開いたり相互の大学で、ダブルアポイントをして、実質共同のラボで共同指導したりといろいろと工夫しています。これを継続すれば、今後、グローバルに重要性が増すネットワーク通信分野を、世界の中心の一つにもっていかれると信じています。準備が十分でなければ、まずは次世代のための準備しながらチームでTOPを目指す等もできます。

逆にTOPチームを作り、次世代として独立していくこともWelcomeです。ぜひ一度ご検討ください。



YouTube

## ウェビナー開催

ASPIREに採択されたプロジェクトを紹介、それぞれの取り組みを掘り下げます。JSTの実務担当者からはASPIRE公募のポイントを解説します。

日時:2026年3月27日(金)16:00 - 17:30

申込み:当日正午まで受付QRコードより



## PIからのメッセージ



私たちは、通信・ネットワーク分野における国際共同研究を、持続的に発展する国際研究圏として構築することを目指しています。その核となるのは、



YouTube

北欧の先進的研究拠点との強固な連携を基点に、欧州、北米、産業界、標準化コミュニティへと協働を広げる水平展開です。ダブルアポイントメントにより東京大学とオウル大学の双方に職位を持つ体制の下、研究と人材育成を一体的に推進し、国際ワークショップや共同プロジェクトを通じて研究協力を高度化しています。さらに、本郷キャンパスのローカル5G基盤、IOWNとの有線・無線統合環境、AI-RAN実験環境、海外テストベッド接続を整備し、国際共同研究を実装・実証へと発展させています。加えて、著名な研究者を複数名Global Fellowとして招聘し、学生・若手研究者の海外派遣、国際ワークショップ、リーダー育成を通じて、次世代への垂直継承も進めています。すなわち、中核拠点から国際連携を横へ広げ、同時に次世代へ縦に継承することで、日本発の通信研究を世界の潮流へと接続しようとする戦略です。



YouTube

「室蘭から世界へ」を掲げ、無線通信を中核にコンピュータ科学センターを拠点として研究を展開しています。

連携を重視し、ASPIREプロジェクトを通じて世界中のトップ研究者を室蘭に招聘してきました。その結果、若手研究者や学生が最先端の知に直接触れる機会を創出しています。さらに、この2年間でQ1論文約100件(約90%)という卓越した成果を挙げ、国際的に存在感のある研究拠点へと成長しています。